

やめてんか！カジノ・万博

3月23日、靱公園にて「やめてんか カジノ・万博パレード」に参加しました。

参加者も多く、集会では万博の問題点として、一つ目は、夢洲への道路ルートが橋とトンネルの各1本しかなく、並行して進むIRカジノの工事と重なって、車両の渋滞が一層ひどくなること。二つ目は費用がどこまで膨らむのかという問題もあり、建築資材や労務費の高騰を理由に2350億円と当初の2倍近くまで上振れすることが決まった。この他にも大阪メトロ延伸やアクセス道路、上下水道などのインフラ整備費を含む建設費の総額のうち大阪府・市負担分が示されていないのが問題だ。

膨らむ安全性への懸念

三つ目は万博会場の安全性の問題で、入場者の輸送計画では大阪メトロの混雑率を約140%とし、IRカジノの工事が本格化すると渋滞事故が心配される。夢洲は恒常的に地盤沈下し地震による液状化の恐れもある軟弱地盤であり、台風や地震によってトンネルや橋が通行止めになると、来場者が夢洲に残されることになる。

だが、食料・飲料水の備蓄や避難施設なども準備できていない。

こうしたリスクが解決できな

いなら、「万博は中止すべきだ」と訴えていました。

集会後、「万博やめよ！カジノはいらん！」「巨額の税金を浪費する万博は即時中止を！」などの横断幕を掲げ、難波までデモ行進しました。

(教宣部)



進まない復興

ー 福島キャラバンに参加して ー

はじめて福島キャラバンに参加させていただき、現地でお世話になった小名浜支部の皆さん、そして全国の各支部の皆さんありがとうございました。



今回、福島キャラバンに参加しようと思ったきっかけは、2年前に、大阪での学習会で、矢内さん（東北地方小名浜支部）と出会ったことです。

その学習会で福島県の現状がメディア報道とは大きくかけ離れていると聞いてはいたのですが、実際に現地視察をおこなって、ほとんど復興が進んでいないことに衝撃を受けました。

誰も住んでいない街、汚染土をいっぱい積み上げた土地、解

体の進んでいない住宅など、こんなにたくさんあるとは思いませんでした。

私が一番心に残っているのは、浪江町津島地区の方が言われていた「いくら今後復興が進んでも、震災以前にあったコミュニティ、その地域の風景は二度と戻ってこない」という言葉でした。

この話を直接聞くまでは、「住むところを保障があれば、大丈夫なんじゃないか」と思う自分がいました。しかし、コミュニティや住んでいた人たちの生活など、先祖代々継がれてきた歴史のお話を聞き、そう思っていた自分に罪悪感を感じました。

今後は、今回のキャラバンで感じたことを大阪でも発信し、少しでも多くの人に、関心をもってもらえるようになればと思っています。

(青年部事務局長 佐久原 海)



第391号 2025年4月7日



発行 大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 陣内恒治



支部25春闘総決起集会

3月2日、大阪支部2025春闘総決起集会を、大阪港湾第2福祉センター前にて、21分会、執行部14名、来賓10名、総勢235名の参加で開催しました。

はじめに、小林委員長から昨今の国内外の情勢から、とどまるところのない物価高騰や30年にわたる実質賃金の低迷を踏まえて25春闘では、大幅な賃金引き上げを一致団結して勝ち取るとともに、私たちの生活が疲弊する根源である政治を変えてはいけないこと、そして大阪・関西万博が強行される直前であるが、開催中の事故や自然災害に対する危険性や関西の生活を支える物流の停滞など問題点について広く訴えるとともに、その後控えるIRカジノは、絶対に阻止しなければいけないと力強く述べられました。

続いて、関西地本樋口書記長からは、第1回中央港湾団交にて、全国港湾竹内中央執行委員

長から25春闘は実力行使も視野に入れて取り組む決意を表明して要求提出を行ったことや、その後の経過報告がありました。共闘関係からは、全日建連帯関生支部、港合同、なかまユニオンの3労組から連帯のあいさつがありました。

関生労組から勝利報告

関生支部細野書記長から、2月26日に京都地裁では、組合活動を恐喝や強要未遂などの罪として、現委員長と前委員長に対し、懲役10年を求刑した検察の主張を退けての無罪判決を勝ち取った報告と、反弹圧運動を共に闘ってきた大阪支部に対して感謝の意が述べられました。

今回の判決では、団体行動権という憲法28条が保証する労働者の権利や意義を踏まえたまっとうな判決が下されたと言えます。

政党からは、社民党大阪府連合の長崎由美子代表が参加されました。昨年の総裁選挙で自民・公明は、少数与党に転落したものの、これまでの防衛力増強を進める動きはとまることなく、2度目の政権をスタートしたトランプ大統領からも、さらなる防衛力の増強を求められています。憲法9条の平和主義が何をめざしてきたのかが、今まさに問われています。

このような、政治・経済状況のもと25春闘では、平和をまもる運動はもちろんのこと、物価上昇に見合った大幅な賃上げ獲得、そして中小零細企業自らが持続的に賃上げできる環境づくりや労働市場の改革を目指し、小林委員長の「団結ガンバロー」にて集会を締めくくりました。

集会後は、大正内港から大正駅までの約6キロを25春闘勝利に向けデモを完結しました。

(書記長 吉 剛 真一)